



高貝慶隆教授

福島大共生システム理工学類の高貝慶隆教授(43)と古川真客員准教授(42)は二〇二〇(令和二)年度「科学技術分野の文部科学大臣表彰」の科学技術賞(開発部門)を受賞した。八日、同大で記者会見して発表した。

福大の高貝教授と古川客員准教授 科学技術賞を受賞 ストロンチウム90分析装置開発

高貝教授、古川客員准教授の研究グループは、放射性物質ストロンチウム90の自動分析装置を開発した。従来は分析に二週間以上を要していたが、時間短縮に成功し、最短十分での分析を可能にした。従事者の被ばくを最小限に抑える効果や、汚染水処理業務の効率化につながる点が評価された。装置は既に東京電力福島第一原発で活用されている。

研究の中心を担った高貝教授は「円滑な廃炉作業や復興に寄与できるよう今後も研究を進めていく」と語った。

福島民報

2020年4月9日

福島大 高貝教授が大臣表彰

ストロンチウム 迅速な分析法開発

福島大共生システム理工学類の高貝慶隆教授(43)が、東京電力福島第一原発事故に由来する放射性ストロンチウムの迅速な分析法を開発した研究で、本年度科学技術分野の文部科学大臣表彰(科学技術賞・開発部門)を受賞した。福島大



受賞を報告する高貝教授

が8日発表した。同大によると大学として初めての受賞という。

パーキンエルマージャパン(横浜市)の古川真氏(42)

と共に受賞。高貝氏は原発事故後、放射性物質の「ストロンチウム90」の分析の迅速化に向けた研究に着手。従来2週間以上を要していた分析を最短10分に短縮することに成功した。この技術は福島第一原発の廃炉作業で活用されている。科学技術賞・開発部門は、日本の社会経済、国民生活の発展向上に寄与し、利活用されている研究を行った個人やグループを表彰している。高貝氏は「受賞は大変ありがたい。実際に利活用されていることなどが評価されたのだと思う」と話している。

2020年4月9日

福島民友